

特定非営利活動法人子ども大学よこはま 設立趣旨書

子どもは10歳ごろから知性が急速に発達し、世のなかのことや自然のことに「なぜ？」と素朴な疑問を抱きます。この子どもたちの好奇心に応え、知的な世界を開くため、大学の先生や専門家が、大学の教室でわかりやすく授業する「新しい学びの場」が子ども大学です。

子どもたちが育ち、社会を支えていく未来の世界は高度知識社会で、創造的知性が求められます。子どもの時から大学の知性に触れ、新しい知的世界をのぞき見ることによって、学ぶことの楽しさを体験することは、子どもの夢とロマンを育み、知性を磨く貴重な機会となるはずです。

経緯：

子ども大学は、ドイツの大学で始まりました。

日本では、平成20年12月に「子ども大学かわごえ」が、子ども大学として初めて産声を上げました。今回「子ども大学よこはま」は、「子ども大学かわごえ」と姉妹校関係を結んで、同校の運営手法や経験を活用し、大学の先生方の協力を得て、新たに横浜の地に「子ども大学よこはま」を設立することになりました。

広く賛同者を募り、子ども大学の目的に沿い継続的な活動を行うため、特定非営利活動法人として運営します。

「子ども大学よこはま」の意義：

◆教育は、子どもたちへの最高の贈り物です。

横浜は、教育資源に恵まれています。

市内には、多くの大学や教育機関、歴史的建造物、国際機関、最先端企業などが集積し、豊かな自然も広がっています。市民の中には、様々な分野に秀でた人たちが大勢います。このような資源を活用して、市民の手で、質の高い教育を創ることができるのが横浜です。

◆「子ども大学」は、知性や感性を育む教養教育です。

4～6年生を対象に、1年間、学ぶ楽しさを体験し、視野を広げます。また“教授”の人格に触れることは、生き方を考えるきっかけになるでしょう。すでにNPOによって多くの教育活動が市内で展開されていますが、まったく新しいコンセプトの教育活動です。

◆横浜は、開港を機に新しいもの、異なる文化を積極的に受け入れて発展してきた歴史があります。横浜の歴史や文化を学び、国際社会で自らの力で道を切り開いていく、たくましい子どもたちがこの横浜から巣立っていくことが市民の願いです。

子ども大学よこはま（CUY）の4つの特徴：

1. 「子ども大学よこはま」は未来志向型の考える教育を実施し、自ら考え、判断し、行動する力を育みます。
2. 「子ども大学よこはま」は、「子ども大学かわごえ」と姉妹校関係を結んで、同校の運営方法を活用し、横浜市の特徴を活かして運営します。
3. 「子ども大学よこはま」は、一般市民、大学教授、教育関係者、産業人など地域のボランティアが結集して創り上げる市民立大学です。
4. 「子ども大学よこはま」の教育プログラムは、年間を通して「はてな学」「生き方学」「ふるさと学」を学び、子どもたちの視野を広げます。
 - ・「はてな学」は、純粋科学的な“なぜ”を追求します。
 - ・「生き方学」では、社会とのつながりと自分の役割や将来を考えます。
 - ・「ふるさと学」は、横浜の文化や歴史を学ぶとともに、異なる文化を理解し、尊重する態度を養います。

平成 26 年 11 月 28 日

特定非営利活動法人子ども大学よこはま
設立代表者 内田ふみ子

【設立発起人】

小林 登（日本子ども学会名誉理事長、東京大学名誉教授）

榊原 洋一（チャイルド・リサーチ・ネット（CRN）所長、
お茶の水女子大学大学院教授）

今井 雅和（専修大学経営学部教授）

酒井 一郎（NPO法人子ども大学かわごえ理事長）

矢倉 久素（NPO法人子ども大学かまくら理事）

劉 愛萍（チャイルド・リサーチ・ネット（CRN））

木津 純子（慶應義塾大学薬学部教授）

佐々木玲子（慶應義塾大学体育研究所教授）

安藤 寿康（慶應義塾大学文学部教授）

牛島 敏明（慶應義塾大学商学部教授）

遠藤 悦郎（おもしろ科学たんけん工房スタッフ、認定臨床心理カウンセラー）

石野 恵子（Baby 英会話、ベビーマッサージ&サイン主宰）

入澤 敏明（デザインコンサルタント）

小堀 潤（コミュニティ・マネージメントコーディネーター、オフィスCRD（LLP））

内田ふみ子（編集・執筆業、JAXA 宇宙教育リーダー）